国立がん研究センターがん対策情報センター　がん統計研究部 地域がん登録室便り

松田 智大　　松田 彩子
国立がん研究センターがん対策情報センター　がん統計研究部

NL前号発行からの間に様々な変化がありました。丸亀、味木両先生が退職されたこと、柴田亜希子先生が山形から赴任され、松田彩子先生が新規着任したこと、名称が「がん統計研究部」と変わったこと…。引き続き皆様の協力のもと、精力的に活動する所存ですのでどうぞよろしくお願いいたします。

1 | がんの罹患数・率と生存率の公表

昨年度実施した全国がん罹患モニタリング集計（MCIJ2006）の報告書と集計表、生存率報告書と集計表、をそれぞれウェブサイトに掲載しています（http://ganjoho.jp/professional/statistics/monita.html、http://ganjoho.jp/professional/registration/situation.html）。

2 | がん登録の標準化と精度向上

標準データベースシステム（標準DBS）は、北海道、青森、山形、福島、茨城、栃木、群馬、石川、山梨、長野、愛知、滋賀、京都、兵庫、島根、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知、熊本、沖縄の23地域で稼動しており、秋田、大分、佐賀の3地域でも導入作業中です。今年度中には30道府県以上で標準システムが導入されます。

精度向上については、がん診療連携拠点病院における院内がん登録整備の継続と（全国集計:http://ganjoho.ncc.go.jp/professional/statistics/hosp_c_registry.html）、DPC病院における地域診療係数加算により、一層実現されることでしょう。

5月に新規着任しました松田彩子です。

私は、これまで東京医科歯科大学大学院で、修士課程から博士課程にわたり医歯学総合研究科　心療・緩和医療学分野に在籍し、量的調査研究に携わり、調査票の作成、収集、統計解析を専門的に学びました。主に取り組んでいた研究は、がん患者の生活の質（Quality of life：QOL）の経時的調査、がん情報提供サービスのあり方に関する調査、全国の終末期医療を担っている医療者の意識調査に取り組みました。また、大学院と併行して国立保健医療科学院の専門課程で生物統計分野を専攻し、生物統計の理論や疫学調査を学び、研究ではメタアナリシスに取り組みました。

これまでの研究活動では、がん患者に直接関わる、がん診療の質の向上とがん患者の支援を課題として取り組んできましたが、その取り組みの中でも、正確ながんの実態把握の重要性を実感していました。

今後は、職務として与えられたがん登録の整備を確実に進め、将来的には、今まで身に付けた知識や実施能力を活かし、がん診療の質の向上とがん患者の支援に、がん登録を直接に役立てるような業務に発展させていきたいと考えております。

3 | 地域がん登録行政担当者・実務者講習会

がん登録を担う実務者の育成と行政担当者への情報提供は、がん対策情報センターの柱のひとつです。今年度も、12月7日～8日の日程で地域がん登録行政担当者・実務者講習会を開催する予定です。Eラーニングで予習できる環境の整備に加え、評判のよいグループ演習を継続することで、効果的な講習会の実施を目指します。募集要項を10月頃に公表する予定です（http://ganjoho.jp/professional/training_seminar/training/）。

4 | 第3次対がん「がんの実態把握に関する研究」班事務局

研究班主催で、地域がん登録行政担当者着任説明会を5月18日に国立がん研究センターにて開催し、全国から29県38名の参加を頂くことができました。ありがとうございました。多くの地域で人事異動があり、新担当者間交流のお役にも立てたかと思います。

第3次対がん「がんの実態把握の研究」班の事務局として、全国がん罹患モニタリング集計（MCIJ）について2007年罹患症例の収集を実施する予定です。例年通り、7月に研究班より各県に依頼をお送りし、9月にデータの提出をしていただく予定です。なお、本計画の大半の作業は、昨年度より、地域がん登録全国協議会に委託しています。また、今年度が第3期4年間のちょうど中間地点に当たること、昨今の新規事業開始で地域がん登録の環境が大きく変わったことから、第3期中間調査と題し、現況調査を行いたいと思います。長めの調査票となりますが、皆様にも有用な基礎資料となりますので、是非御協力ください。

「地域がん登録事業会議」を、7月29日と2月に開催し、本年度の研究班の活動や地域がん登録に関する情報を提供いたします。本会にも是非御参加ください。